



### りんりんネット情報誌



鈴木 英美町長  
SUZUKI Hidemi

**【町長】** 本日はお忙しい中、ありがとうございます。平成19年の1月から町長に就任しました鈴木です。それまでは5期20年にわたって議員の立場で町政に携わってきました。町長に就任して10カ月になりますが、「町民とともにまちづくりを」という思いで取り組んでまいりました。さて、本日は、三芳町が特に力を入れている事業のひとつである「子育て支援」をテーマに、実際に子育てをされている住民の方と語り合える座談会を設けさせていただきました。子育て真っ中の当事者として、また、「子育てネットワーク「りんりんネット」のメンバーとしてがんばってくださっている皆さんならではの話を、いろいろと聞かせていただければと思っています。よろしくお願ひします。

**【藤川】** こちらこそ、よろしくお願ひします。3歳の子ともがいます。りんりんネットには設立時から関わらせていただいています。**【斉藤】** 上富在住で、4歳と1歳の子ともがいます。両方とも男の子でして…(笑)、子育て奮闘中です。よろしくお願ひします。

**【浜嶋】** 上富在住です。4歳の男の子がいます。りんりんネットでは情報誌を担当しています。

**【大島】** 私も上富在住で、子どもは3歳と1歳です。結婚した時から三芳町にずっと住んでいます。

**【石山】** 3歳と2カ月の娘がいます。この子を妊娠した時に、地元の藤久保に戻ってきました。夫も私も藤久保出身で、親が両方とも藤久保に住んでいます。サロンの担当です。

**【斉藤】** 今日、ここに来るまでは、どういふお話をしたらいいのかなと緊張していました。

**【石山】** 町長と直接お話するなんて、しかも子ども連れで(笑)なんて、そうはないと思います。どうして今日のような座談会をしようと思われたのですか？

**【町長】** 話が大きくなりますが…。地球上に生を受けたものは、すべて子孫のために最大の努力をするというのが、大切な基本だと思うんです。それは鳥も動物も植物も、人間社会も同じでして、次世代の育成を怠れば、その種、あるいはその地域は衰退してしまいます。次の世代を考えるためには、今日を築いてきた先人たちの歴史、この町の歴史、これらをしっかりとして継承して、今を預かっている我々自身を見極め、それから未来の夢を考えていかなければ。そういう視点で考えた時、子どもの声が聞こえないまちというはさびしすぎます。全国的に少子化



大島 香さん  
OSHIMA Kaori

が進む中、三芳町ではおかげ様で皆さんと同様に子どもがいる世帯が増えていきます。大変ありがたいと思いますし、これからのまちに夢が広がると思っています。だからこそ、子育て支援は、町にとって大切な事業だと思っているわけなんです。ですから、子育て当事者である皆さんとの座談会を楽しみにしていました。皆さんが取り組まれている「りんりんネット」について、教えてもらえますか？

**【大島】** 2〜3年前なのですが、町がやっている3回コースの子育て講座への参加がきっかけです。その時、せっかく集まったメンバーで、三芳町にはまだない、単なるサークルではない子育てネットワークをつくってみませんか、という呼びかけがあったんです。子育てをしながら何か役に立つことがあればと集まったメンバーで、わからないながらに手探りで始めたのが「りんりんネット」です。**【町長】** りんりんネットのネーミングには、どんな意味があるんですか？

**【藤川】** Link Ringでつながるとい



りんりんネット活動風景

❖ みんなで考える 子育て座談会

Free forum on child-rearing

# 三芳町で子育て😊隊

Let's raise children in Miyoshi Town!

現役子育て中のパパママ、はたまたプレママプレパパを結ぶ、子育て支援ネットワーク「りんりんネット」のメンバーが町長と一緒に考える「三芳町での子育て」談義。



子どもを育てる親にとって、

このまちがどんなまちであるかはとても大切な要素です。

子育て支援サークル「りんりんネット」のメンバーでもあり、

自らも子育て奮戦中のママたちが、

三芳町での子育てを語ります。







まちづくり懇話会

【町長】 皆さんが輪を広げていて、輪に加わりたいという人へ門を開いてくれるというのは大変うれしいことですね。話は変わりますが、皆さんにとって三芳町はどんなまちですか？

【大島】 やっぱ、緑が多いまちだと思います。家を買う時それが決め手でした。都心からも近く、通勤にも問題のない距離です。

【町長】 町のキャッチコピーは「都心に最も近い緑のオアシス」！

【二回】 (笑)。

【大島】 夏になるとみんなカブトムシを飼っていますよね。勝手に飛んでくるから。

【藤川】 うちは、カメムシばかり。【二回】 (笑)。

【石山】 どんぐりじゅうたんもできてるし。

【町長】 そういえば、今年はどうぐりの当たり年らしいですね。

【斉藤】 遊んでいても、ぼとぼと落ちてきます。

【藤川】 そういう自然に恵まれていますよね。



浜嶋 裕子さん  
HAMAJIMA Yuko

【浜嶋】 小学校で芋掘りをするの

ですが、私が子どものころもしていたし、それが当たり前だと思っていました。でも、町外の友達に聞いたら「芋掘りしないよ〜」って(笑)。子どもたちが、土とふれあうっていいことだと思います。



石山 みさおさん  
ISHIYAMA Misao

【石山】 子どもたちを安心して遊ばせる公園がもう少しあるといいですね。子育てママにとって、徒歩10分圏内にあるのが理想です。

【町長】 子どもたちは美味しい空気を吸えるし、子育てするのにいい環境ですよ。藤久保小学校の東側に、みんながお弁当を広げて食べられるような2つ目の大きな公園をつくれたらと思っています。

【斉藤】 いいですね。公園に集まることで、顔見知りが増えていって、人とつながっていくんですね。りんりんネットや子育てサークルに入るのも手ですけど。

【浜嶋】 情報も集められますしね。

【町長】 それから、山林を所有されている方に無償で町に貸していただく代わりに、下草を刈ったり山林の管理をしますよ、という協定を結ぼうかと検討しています。

そういった取り組みが良いモデルになれば、町内にそういう箇所を増やしていきたいと思っっています。子育て支援、子育て環境の整備をしようとするれば、それなりに行政負担があるのが現実ですが、子どもたちは地域の「夢」ですから、その夢への投資と考えて、惜しみなくやっしていきたいですね。

【大島】 「三芳町には児童館が3つもあっていいよね」とよくいわれます。子どもの医療費のことも、すぐくうらやましがられます。本当にありがたいです。

【町長】 そういつてもらえると、うれしいですね。私が町長に就任する前、子ども医療費の無料化を掲げていたのですが、子育て支援策の第一歩として、就学前までの乳幼児医療費はもちろん継続、小学校へ入学された子どもさんも、卒業まで医療費を無料化にしました。児童館もそうですが、集会所も町内に20数カ所あるんですよ。子どもだけの施設というわけではないんですが、こんなに数多くあるところはほかにないんですよ。集会所は地域の方々がコミュニケーションをはぐくむ場所として、大切な役割を担っています。私も、1カ月かけて14の集会所をまわって、まちづくり懇話会を行いました。来年はちょっとセクションを変えて、できれば皆さんのような子育てをしている年齢層の方々に関わっていただいで、懇話会の機会を設けたいですね。もちろん、



高齢大学



運動会

う意味です。

【大島】行政と子育て中のママ・パパだけではなく、子育てが一段落した方やこれからパパ・ママになるという方をネットワークでつないでいって、子育てしやすい環境をつくっていききたいというのが、大きなテーマです。今年には特に、一般公募のイベントと、産前・産後のママ・パパを対象としたサロン、メンバー内外に向けた子育て情報誌「バンビノ」の作成という3本立てで活動しています。

【石山】メンバーは約20人で、月に2回くらい全体的に集まっているほか、イベント、サロン、情報誌の3グループに分かれて、必要に応じてそれぞれ企画などの話し合いを行っています。

【町長】「サロン」というのは？

【石山】出産前後のママ・パパを主な対象とした集まりで、お友だちづくりに役立ててもらったり、外出の機会をつくって気分転換をしてもらったり、先輩ママとおしゃべりをして情報交換をしてもらったり、といった取り組みを定期的に行っています。具体的には、マタニティビクスやベビーマッサージ、栄養相談、父親学級、アフタービクスなどをやっています。【町長】皆さんがつくっている子育て情報誌も、人気ですよ。【浜嶋】ありがとうございます。子育てガイドマップや幼稚園情報誌などもつくっているのですが、

保健センターでもとても人気があって、増刷するくらい好評だと聞きます。

【斉藤】調べたりするのは大変なのですが、自分のためにもなるし、出来上がったものが喜んでもらえるとうれしいですね。

【町長】この間運動会をやられたとか。大盛況だったそうですね。

【大島】ありがとうございます。運動会は大きなイベントのひとつなんです。それも広報などでお知らせして、後はメンバーのお友達とか口コミで50組の親子の参加がありました。



藤川 昌子さん  
FUJIKAWA Masako

【藤川】もっと多かったかもしれないですね。

【大島】総合体育館が11月にオープンするのを待って、去年も開催したのですが、今年はさらに内容も充実させました。りんりんネットだけでなく、いろいろな人が活動に興味を持って、受ける側じゃなくて、自分たちのために何ができるのかって、自分たちで考えてくれる人が増えていったら、すばらしいですね。

【石山】子育てで忙しいけれども、

子育て以外の何かもしてみたいという気持ちは、みんなあると思うんです。だけでもできない。そんな気持ちを生かせるシステムがあるといいのにな。



斉藤 知穂さん  
SAITO Chiho

【斉藤】私も、上の子どもが幼稚園に行き始めて自由になる時間が少なくて、何かやりたいなと思って活動に興味を持ったんです。

【石山】何かしたいのに「何を」「どこで」したらいいのかわからない、そんなお母さんがいっぱいいます。そのエネルギーを眠らせておくのはもったいないですよ。

【大島】今、りんりんネットで一番多い層が3〜4歳児を持つお母さん方なんです。2人目という方も増えてきましたが、下の年齢の子どもを持つ若いお母さん方にも入ってもらいたいですね。層が増えていくと、また違った視点で活動できると思うので。いろいろ悩みながら、それでも毎年毎年いい感じになっていますよ。生涯学習課の方々も本当によく協力してくださって感謝しています。

【石山】こんなに親切にしてもらっているのかしらっていうくらい。



芋掘り

# 子育てを応援します！

## 三芳町の子育て支援いろいろ

Various kinds of support for child-rearing in Miyoshi Town

毎日が発見と感動でいっぱいの子育て。だけど楽しいことばかりでないのも現実です。三芳町が行っているさまざまな子育て支援や交流を通して、子育ての悩みや喜びを共有しながら、このまちで楽しく子育てをしてもらえたらと願っています。

### はじめて子育て講座「ほっとサークル」

**赤** ちゃんを育てることは、毎日が驚きと感動の連続です。一方で、想像以上の忙しさにとまどうお母さんもいることでしょう。同じように赤ちゃんを育てているお母さんたちが集まって、育児について話し合ったり、子育てのヒントを学べる講座です。赤ちゃんと一緒に参加できます。

#### “Hotto Circle” seminar for child-rearing beginners

“Hotto Circle” is a seminar of three sessions, in which mothers who are rearing babies participate by talking and learning about caring for babies. They are allowed to bring their babies with them.



### 子育てサロン



**親** 子が楽しく交流できる場として子育て支援センターが実施しています。0歳、1歳、2歳それぞれの年齢に分かれて日が設けられていて、自由遊びや園庭遊びのほか、絵本の読み聞かせ、年齢に合った遊びや歌、子育てアドバイスなどを行っています。そのほかにも、0～5歳くらいの子どもと親が自由に参加して交流できる子育てサロン「わくわくタイム」も実施しています。

#### Salon for child-rearing

The salon for child-rearing provides the opportunity for joyful exchanges between parents together with their children. It is offered for babies under the age of 1, those aged 1 and those aged 2 by the Child-nurturing Support Center. In the Salon, babies can play and enjoy a book reading service, etc., while mothers can receive advice on child-care. In addition, another salon for child-rearing, “Wakuwaku Time,” is also held in which children aged 0-5 and their parents can participate freely to exchange information with each other.

### 児童館

**町** 内には、藤久保、北永井、竹間沢の3つの児童館があります。児童館では、児童たちに健全な遊びを提供し、子どもたちの健やかな成長と豊かな心づくりを応援しています。館内で自由に遊べるほか、季節ごとに楽しいイベントや体験教室が開催されています。

#### Children's house

There are three children's houses in Miyoshi Town in Fujikubo, Kitanagai and Chikumazawa. They provide opportunities for safe and sound play, while encouraging the sound growth and cheerful hearts of children. In the facilities, children can play freely. Moreover, pleasant seasonal events and practical lessons for learning are also held.





平成19年11月1日  
総合体育館会議室にて収録



いろいろな世代の方の話を聞けたらと思っています。鈴木町長は子育てにはだいいぶ力を入れているけど、私たちのことは考えているんですかって、いわれちゃうといけませんから(笑)。

【二回】(笑)

【石山】 私たちも、同年代だけでなく、高齢者の方々のふれあい欲しいなって思います。核家族が多いので、子どもたちがおじいちゃんおばあちゃんと一緒に遊んでもらったり、昔の遊びを教えてもらったり、そういう場があったらすごくいいと思うんです。

【藤川】 昨年、敬老の日に、自分のおじいちゃん、おばあちゃんに絵を描いてプレゼントするイベントを行ったのですが、今後はいろいろなお年寄りの方と交流できたらいいなと思います。

【石山】 いろいろな世代の方と知り合えたら、道ばたとかで「今、〇〇ちゃんがそこにいたわよ」とか、犯罪防止にもつながっていくと思いますし。

【町長】 お年寄りとのふれあいの場づくり、いいアイデアですね。地域の老人クラブもありますし、高齢大学もあります。そういったつながりから始めてみるのいいかもしれません。高齢大学は月に3回ほど活動しているのですが、各公民館ごとに年に2〜3回合同座談会があるんです。一緒になって何かやれる企画がないか考えてみませんか、今度提案してみます

ね。

【石山】 今日の座談会に参加させてもらって良かったです。こんな機会を設けてくれること自体が、三芳町のいいところですよ。近所の公園で砂場の砂が少なくなってきたよねって話していたら、次の日には誰が連絡したのか、砂がもう補充されていたんですよ。すごい！対応早い！って感動しました。

【町長】 「10日後に入れても、明日入れても入れるのは同じ1回。だったらすぐにやるほうがいい」って職員に聞いています。

【石山】 ちゃんと具体的に一般市民の声を聞いてくれるというのは、すごくうれしいです。

【大島】 住民票を取る時とかも、対応がスピーディーですよ。待たなくていいというのは、ストレスがなくてすごくいいです。

【町長】 子どもさんが一緒だと、なおさらそう感じますよね。小さなことですが、そういう住民の方の「満足」を、大事にしていきたいですね。

【大島】 役場もきれいで過ごしやすい！これで役場に遊べる公園とかキッズスペースなんかができたら、通っちゃうかも(笑)。

【町長】 今ね、エレベータ前のスペースに、まちの情報や写真を展示するコーナーをつくらうかと考えているんです。例えば、春、竹間沢のコブシの花は、今は3分咲きで、あと1週間後が見頃で

す」とか。また、町内のいろいろな所に菜の花の種をまきましたので、来年の春はあちこちで黄色い絨毯が見られると思います。そういった情報を発信する場所のひとつにしたいですね。

【浜嶋】 ふつうは町長と会えることすらできないでしょうし、まして話ができるなんて。町長の人柄もわかって本当に良かったです。それに、子育て支援で、子育てをしているお母さんたちを呼んで話をしようと思われたことが、すごいと思います。

【町長】 確かに今までは町長のスピーチを聞くことはあっても、話す機会というのはあまりなかったと思います。でも私は、直接話を聞くということが大事だと思っているんです。町にも予算がありまして、皆さんの要望をすべて聞き入れるというわけではないですよ(笑)。先ほど話したまちづくり懇話会には、14会場約650人が集まってくださりまして、いろいろな意見をいただきましたよ。

【斉藤】 集会所でまちづくり懇話会をするというのは回覧板で知っていたのですが、子どももいますし、参加するのに抵抗があったんです。今日、たまたまこういう機会に恵まれて、お話を聞いていただけに本当に良かった。ありがとうございます。将来的に自分が年をとった時に、このまちにいたいと思えたらいいなってすごく思います。

【大島】 これからも三芳町に住む予定なので、住みやすいまちであってほしいと思います。でもそれは、町にやってみようというだけではなくて、私たちもできることをやって、それでいいまちになっていけたらと思います。

【斉藤】 今日はどんな話をしようか緊張していたのですが、町長とお話できて楽しかったです。

【町長】 こちらこそ今日は元気をもらいました。三芳町はただか15平方キロメートルの枠におさまった小さなまちです。でも、さまざまな可能性のある、夢を持ったまちです。皆さんには子どもたちをしっかりと育ててもらって、子どもたちが成人して、家庭を持つころに、「子育てするなら、やっぱり三芳町でないと」って思ってもらえる、そんなまちを皆さんと一緒につくっていききたいですね。今日は本当にありがとうございました。

【二回】 ありがとうございます。

